

事業戦略

エネルギー事業



取締役
代表執行役副社長

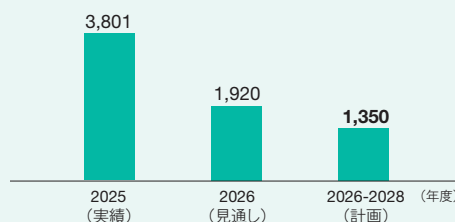
小川 博志

エネルギー事業全般

セグメント別ROIC

2025年度 実績	2026年度 見通し	2026-2028 年度計画	2040年度
6.8%	5.1%程度	3.3%以上	7%以上

■ 経常利益 (億円)



1 発電

2040年の目指す姿

発電事業のリーディングカンパニーとして、需要増加と脱炭素化に応える電源基盤を確立し、日本の安定供給を支える「使命」を果たしつつ、産業とともに「成長」を遂げている

事業環境

- 電化やDX・AI進展に伴う電力需要増加見通し、既存電源の高経年化対応も含めて日本全体で相当規模の電源投資継続の必要性
- 設備の高経年化、労働力不足の深刻化や部材の長納期化
- GX政策等社会全体の脱炭素電気ニーズの高まり、電力・燃料市場のボラティリティ拡大

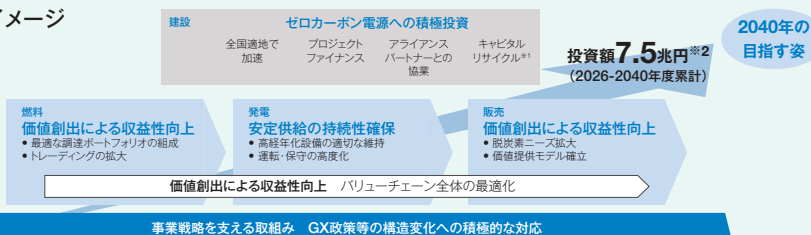
強み

- 電源開発・運営を一貫して担い、安定供給を支えてきた高い技術力
- 黒四建設以来、先進的な取組みに挑んできたチャレンジスピリッツ
- レジリエントな電源ポートフォリオと、国内No.1のゼロカーボン発電能力

戦略

- パートナーとの協業や資本効率向上を通じて、全国適地で電源開発を加速
- 高経年化設備の適切な維持や運転・保守の高度化を推進し、安定供給の持続性を確保
- 脱炭素電源の価値提供モデル確立やバリューチェーン全体の最適化を推進し、価値創出による収益性向上を実現

事業戦略イメージ



※1 事業資産について、持分売却等により投下資本を早期回収・再投資し、資本効率を高める手法 ※2 既存設備の維持投資含む

特に注力する領域

需要増加と脱炭素化ニーズに応える電源基盤の確立のため、長期的な事業環境を見据えつつ、当社の強みを踏まえ、ゼロカーボン電源への積極投資、安定供給の持続性確保、価値創出による収益性向上という3つの領域に注力します。

具体的な取組み

ゼロカーボン電源への積極投資

- 原子力:革新軽水炉の設計検討や小型モジュール炉等の技術的な知見の収集と検討を進め、美浜発電所における後継機設置の可能性有無を検討します。
- 再エネ:2040年までに国内新規開発500万kWを目指し、太陽光や、洋上風力、既存水系を活かした小水力開発等、さまざまな再エネ電源の開発を促進します。
- 火力:南港発電所や姫路第一発電所のリプレイス推進に加えて、パートナー協業や新たなストラクチャーの構築によりLNG火力リプレイス・新設を加速させます。

安定供給の持続性確保

- サプライチェーン全体における中長期的な施工力・部材確保に関する課題の把握と、当社グループとして取り組むべき課題・領域を整理したうえでの具体的な対策を検討します。
- AIの活用など新技術導入に向き合い、現場での創意工夫等によるコスト低減・適正化を図るとともに、設備利用率向上、出力向上や発電電力量増等の取組みを進めます。
- 原子力7基の安定運転、ひいては電力の安定供給に寄与するものと考え、使用済燃料対策を含む原子燃料サイクルを推進します。

価値創出による収益性向上

- 燃料調達、発電、卸販売を一体として捉え、領域横断で機動的に意思決定し、燃料調達ポートフォリオの最適化やトレーディングの拡大、電力先物取引の活用等を進めることで、発電バリューチェーン全体の最適化を図ります。
- 多様化する脱炭素化ニーズに応えるため、コーポレートPPA推進を含む脱炭素電気価値の提供方法多様化に取り組めます。